

風水害、土砂災害に備えて

近年、日本各地で毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険がせまる前に早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネットで発表される気象庁からの情報、注意報や、町からの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき

屋内では
風圧や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。雨戸のある窓は雨戸を閉め、ない窓などは外から板でふさいだり、内側からガムテープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。

路上では

看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。大雨を伴う場合は、地下には逃げ込まないようにしましょう。

大雨のとき

屋内では
床下、床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。

車の運転中は

豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに高台に移動しましょう。浸水でエンジンが止まると、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

河原では

急な増水や土砂災害の危険があるので、高い場所に移動しましょう。今いる場所で雨が降っていないとしても、サイレンなどの警報が聞こえたらすぐ避難しましょう。

土砂災害の種類と前兆現象

土砂災害が発生すると、人命に関わる重大な被害をもたらします。長雨や大雨のときに次のような現象を確認したら、早めに避難しましょう。

急傾斜地の崩壊	土石流	地すべり
● けがらの水がにごる。 ● 地下水やわき水が止まる。 ● 斜面のひび割れ、変形がある。 ● 小石が落ちてくる。 ● がけが下ががる。 ● 異様な匂いがする。	● 山崩れがする。 ● 立木の裂ける音や岩の流れる音がする。 ● 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。 ● 川の水位にごり、流木がまざる。	● 地面にひび割れができる。 ● 井戸や沢の水がにごる。 ● がけや斜面から水が湧き出す。 ● 家やようちんが傾き始める。 ● 家やようちん、樹木、電柱が傾く。

風水害からの避難の注意点

安全な服装で
ヘルメットや防災ずきんで頭を保護します。ただし長靴ではなく、ひもで締められる運動靴を履きましょう。

単独行動は危険
避難するときは単独行動は危険です。高齢者や傷病者などは背負い、子どもには浮き輪などをつけて安全を確認しましょう。

危険が迫ったら
危険が迫っている場合(右記の3つのケースなど)は、離れた場所にある避難所への移動(水平避難)だけでなく、自宅付近の建物(高所へ移動(垂直避難)、救助を待つことも検討する必要があります。

足元に注意
道路が冠水すると足元が見えにくくなります。長い棒などを杖代わりにして、側溝やマンホールに気をつけましょう。

深さに注意
歩行可能な水深の目安は約50センチですが、水の流れるが早い場合は20センチ程度でも危険です。危険と判断した場合は、無理をせず、高所を待ちましょう。

夜間などで、避難経路上の危険箇所がわかりにくい
すでにひき上まで浸水(50センチ以上)している
浸水は20センチ程度だが、水の流りが速い

風水害対策の基本は情報収集

大雨や台風のととき、気象庁や気象台は様々な気象情報を発表します。気象情報の種類や内容を理解し、日ごろから天気予報を気にかけるように心掛けましょう。

主な気象情報の種類

- 台風情報.....台風が発生したとき
- 注意報.....災害のおそれがあるとき
- 警報.....重大な災害のおそれがあるとき
- 特別警報.....重大な災害の発生するおそれが著しく大きいとき
- 記録的短時間大雨情報.....数年に一度の大雨を観測したとき
- 土砂災害警戒情報.....土砂災害のおそれがあるとき

自宅の風水害危険度を知る

自宅の風水害危険度を知るためには、ハザードマップを確認して、自宅付近がどの程度の危険度になっているか確認しましょう。ただし、ハザードマップに記載された情報は、「特定の想定」に基づくひとつの予測です。ハザードマップを活用して防災意識を高めることは重要ですが、頼り切ってしまうのは危険です。いざというときに自ら危険性を判断できる能力を養うことが重要です。

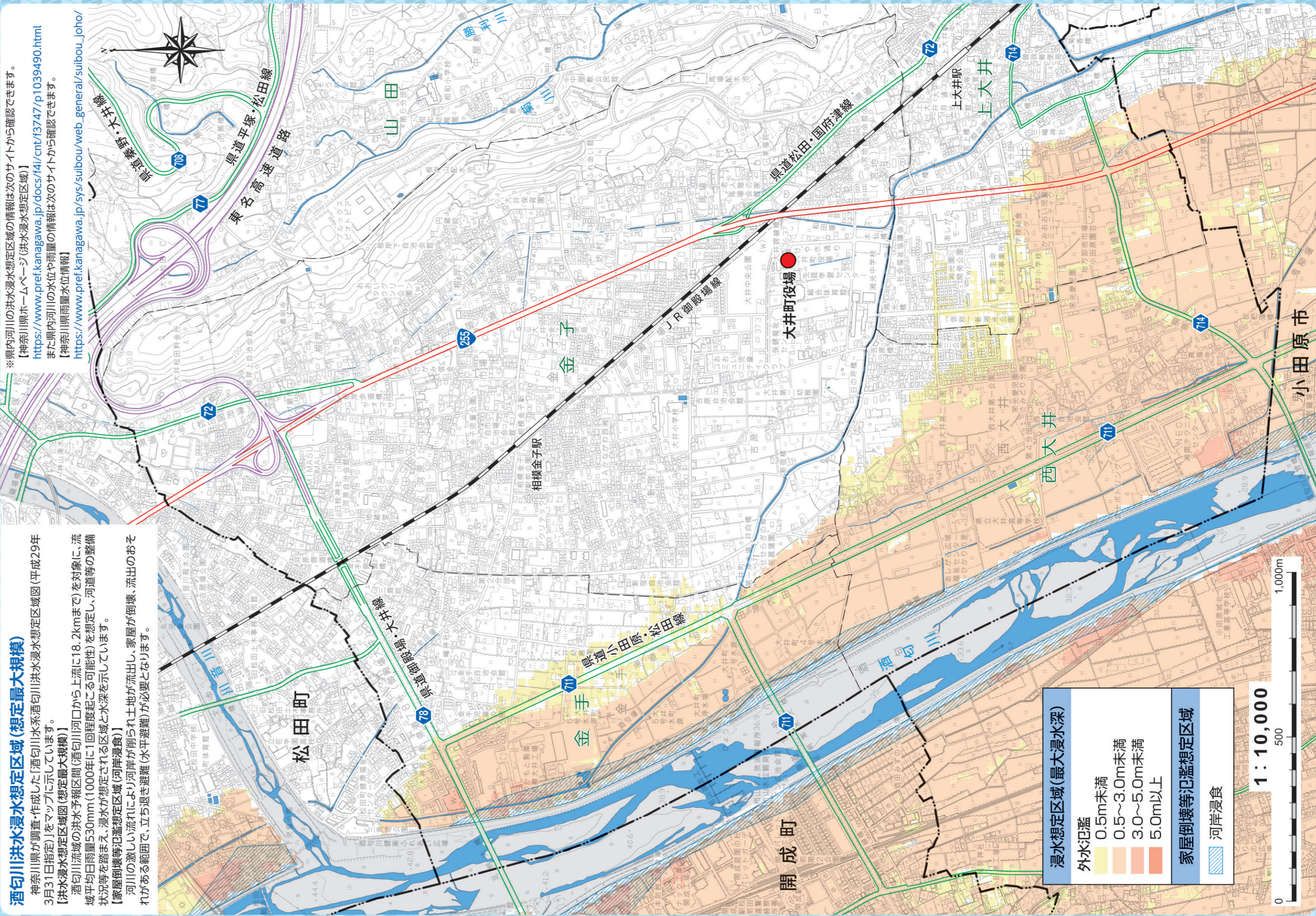
ハザードマップの確認ポイント

- 自宅のある場所の予測される被害程度
- 避難所の位置、そこに至る経路
- 災害時に危険と思われる場所

避難情報と取るべき行動について ※「わたしの行動」を記入しましょう

町では大雨等で土砂災害や洪水などが発生するおそれがある場合、その危険性に応じて、警戒レベル3以降の避難情報を発令し住民の皆さんに避難行動を促します。避難にあたっては、やくもにも避難先へ向かうのではなく、周囲の状況に十分注意し、まずは浸水想定区域や土砂災害警戒区域などの中に入ることを優先してください。また、既に浸水が始まっているなど、安全に避難できない場合には、自宅や最寄りの丈夫な建物などの2階以上(斜面から離れた場所)に一時避難してください。

警戒レベル	情報(発令元)	内容	取るべき行動	町からの発令時期
1	早期注意情報(気象庁)	これから警報を発表する可能性を早い時期に伝える情報です。	防災気象情報に留意するなど災害への心構えを高めます。 わたしの行動:	※気象庁から
2	洪水注意報(気象庁)	災害発生に対する注意が高まっている時に発表される情報です。	ハザードマップなどで自身の避難行動を確認しましょう。 わたしの行動:	※気象庁から
3	高齢者等避難(大井町)	避難指示等の発令の可能性が高くなる場合に、避難開始を促す情報です。	お年寄りや、体の不自由な方、避難を支援する方など危険な場所から安全な場所へ避難をしましょう。それ以外の方も普段の行動を見せつけ、避難の準備をとり、危険を感じたら早めに避難をしましょう。 わたしの行動:	● 土砂災害 大雨警報(土砂災害)が発令された場合など ● 洪水 酒匂川富士濃橋水位観測所 避難判断水位2.4m 川島川川津水位観測所 避難判断水位0.95m
4	避難指示(大井町)	災害の危険性が極めて高まった場合に、対象地域の居住者や滞在者の生命又は身体を保護の目的として安全な場所への立ち退きを求め、全員避難を促す情報です。	速やかに避難所など安全な場所へ避難を開始してください。 わたしの行動:	● 土砂災害 土砂災害警戒情報が発表され引き続き高潮が発せられるときなど ● 洪水 酒匂川富士濃橋水位観測所 避難判断水位2.9m 川島川川津水位観測所 避難判断水位1.8m
5	緊急安全確保(大井町)	既に災害が発生しているか、確認できないものの、どこかで既に発生しているにもかかわらず、状況が不明なまま、命を守る行動を促すため発令される情報です。必ず発令される情報ではありません。	安全な避難が難しい状況です。その場で実行できる限り、少しでも身の安全を確保できる行動を取ってください。 わたしの行動:	● 土砂災害 大雨特別警報(土砂災害)が発令された場合など ● 洪水 冠水警報(浸水)が発令された場合や大雨特別警報(浸水)が発令された場合など



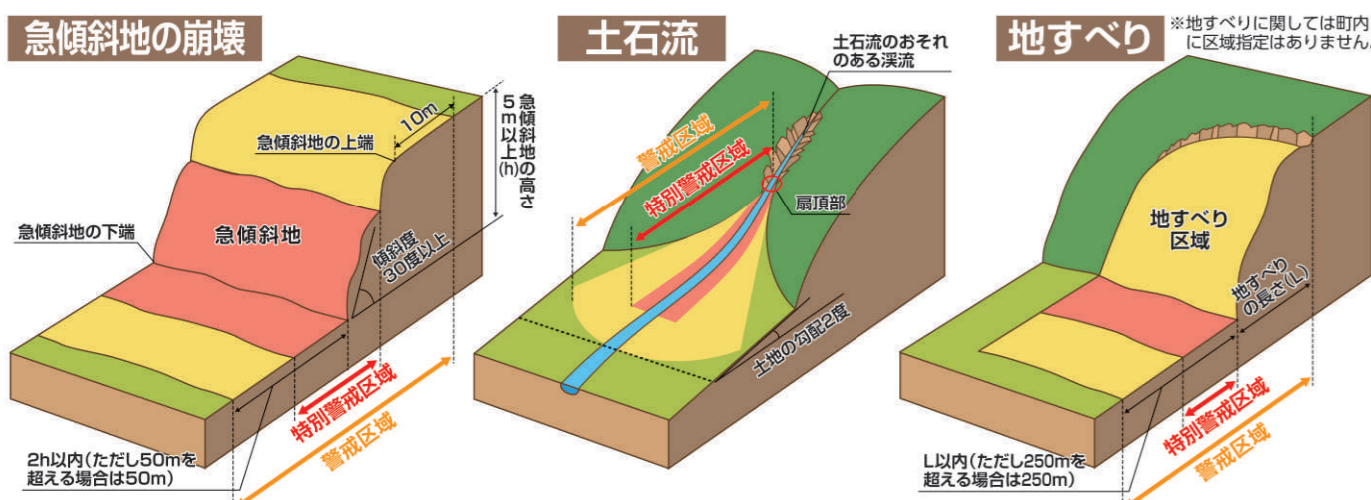
酒匂川洪水浸水想定区域(想定最大浸水) 神奈川県が調査・作成した「酒匂川(水害)川洪水浸水想定区域(平成29年3月31日現在)」をマップ上で示しています。【洪水浸水想定区域(想定最大浸水)】 酒匂川(水害)川洪水浸水想定区域(平成29年3月31日現在)に1000年に1回程度起こる可能性を想定し、河堤等の崩壊や浸食を想定し、浸水が想定される区域と浸水を示しています。【浸水の深さ】 浸水の深さは、浸水が想定される区域と浸水を示しています。【浸水の範囲】 浸水の範囲は、浸水が想定される区域と浸水を示しています。【浸水の範囲】 浸水の範囲は、浸水が想定される区域と浸水を示しています。

土砂災害警戒区域について

神奈川県が土砂災害防止法に基づき、土砂災害へ警戒が必要な区域として指定しています。

土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)
傾斜地や渓流の形態等が一定基準を超えており、がけ崩れや土石流などが発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずる恐れがあると認められる土地の区域で、住民への危険の周知、警戒避難体制の整備が図られます。

土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)
がけ崩れ等が発生した場合に、建築物に損害が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、一定の開発行為の制限、建物の構造規制や建物の移転勧告等が図られます。



急傾斜地崩壊危険区域について

神奈川県が急傾斜地に基づき、急傾斜地の崩壊が助長され、又は誘発されるおそれがある一定の行為を制限する必要がある範囲を「急傾斜地崩壊危険区域」として指定しています。また指定に併せ、神奈川県による崩壊防止工事が行われています。土砂災害に関する情報は次のサイトから確認できます。神奈川県土砂災害情報ポータルサイト、https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html

町では防災行政無線をはじめ、複数の手段を用いて防災情報を発信します

防災行政無線	町内の屋外スピーカーや戸別受信機を通じて放送を流します。※放送内容は放送後、お電話にて再度確認できます。防災行政無線テレホンサービス TEL: 0465-82-0120
広報車	緊急時には広報車で町内を巡回放送します。
大井町あんしんメール	事前登録いただいたメールアドレスに防災情報はじめ町からあんしん安全情報を配信しています。(防災行政無線で放送された内容はこちらでも配信されます。)
大井町LINE公式アカウント	コミュニケーションアプリ「LINE」を活用し、災害時には防災情報の配信も行います。
緊急速報メール	避難情報など緊急性の高い情報を町域に存在する携帯端末(ドコモ・ソフトバンク・au・楽天の対応機種のみ)に一斉送信します。
防災アプリ	災害協定先の協やフーが提供する防災アプリの通知サービスを利用することで、自治体からの緊急情報をプッシュ配信で受け取ることができます。Yahoo!防災速報
町ホームページ	災害情報を随時更新で配信しています。大井町 検索
データ放送	テレビのボタンを押して各テレビ局のデータ放送を利用いただく、自治体からの避難情報や発表されている気象警報等が確認できます。

避難行動を確認

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

平時に確認 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと取るべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は? **必ず取り組みましょう**

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけておきましょう。
※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれのある高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか? **いいえ**
色や塗られていないと、周りや比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

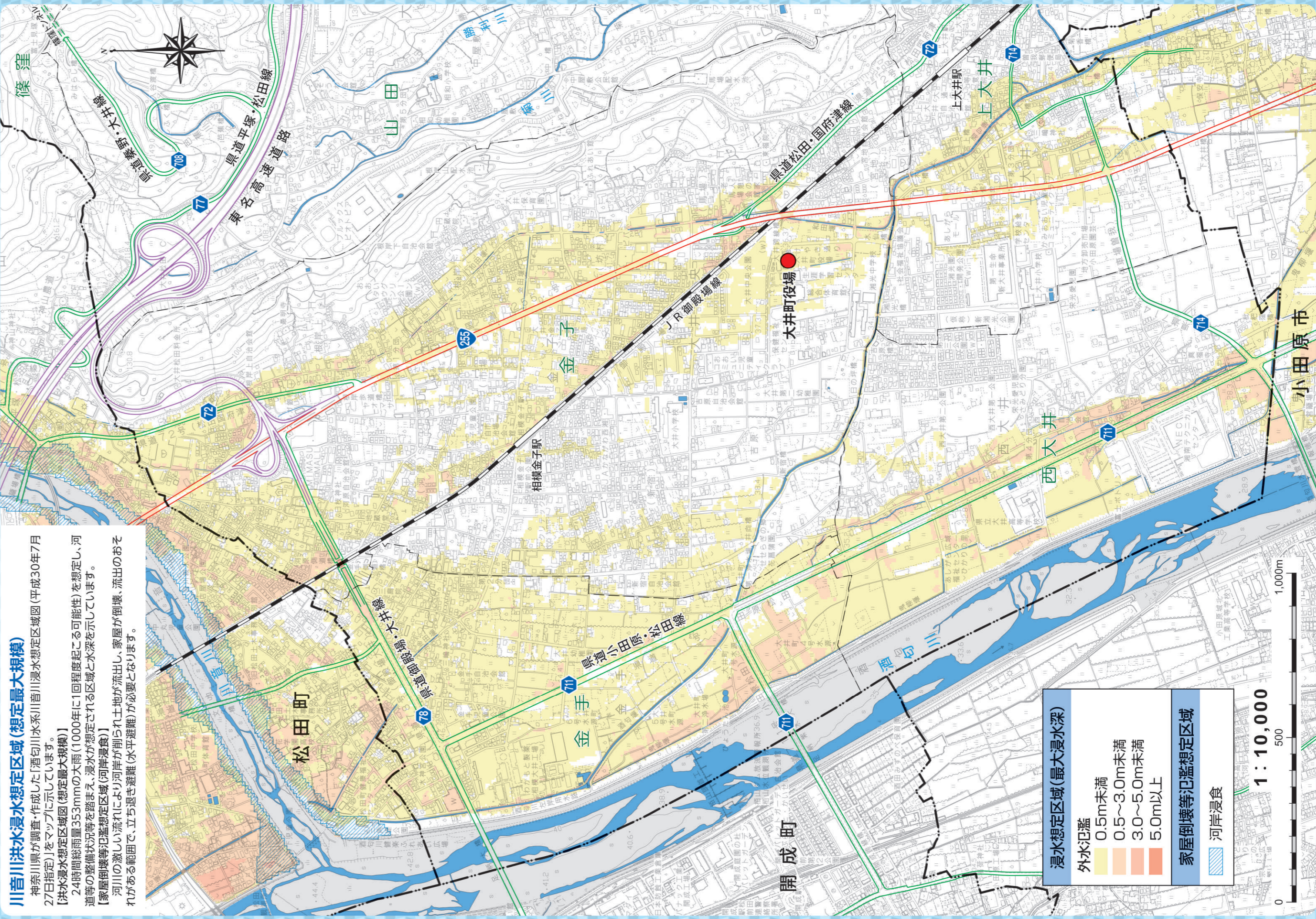
災害の危険があるので、原則として、立退き避難(自宅の外に避難)が必要です。 **例外**
※浸水の危険があっても、①洪水により家屋が倒壊又は崩壊してしまうおそれの高い区域の外側である。
②浸水する深さよりも高いところにいる。
③浸水しても水がひくまで我慢できる。水・食料などの備えが十分にある場合は屋内安全確保(自宅に留まり安全確保すること)も可能です。
※土砂災害の危険があっても、十分頑丈なマンション等の上層階に住んでいる場合は、自宅に留まり安全確保することも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか? **いいえ**
はい
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか? **いいえ**
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか? **はい**

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)。
警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)。
警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)。
警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)。

警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。
「避難」とは「離」を「避」けることです。自宅などが安全な場所にある場合は、避難所に行く必要はありません。
避難先は指定避難所だけではなく、安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

わたしは警戒レベル が出たら に避難します。



川島川洪水浸水想定区域(想定最大浸水) 神奈川県が調査・作成した「川島川(水害)川洪水浸水想定区域(平成30年7月27日現在)」をマップ上で示しています。【洪水浸水想定区域(想定最大浸水)】 川島川(水害)川洪水浸水想定区域(平成30年7月27日現在)に1000年に1回程度起こる可能性を想定し、河堤等の崩壊や浸食を想定し、浸水が想定される区域と浸水を示しています。【浸水の深さ】 浸水の深さは、浸水が想定される区域と浸水を示しています。【浸水の範囲】 浸水の範囲は、浸水が想定される区域と浸水を示しています。